

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームつばさ原町 - 舞鶴)

事業所番号	0691600043		
法人名	株式会社 ユニバーサル山形		
事業所名	グループホームつばさ原町		
所在地	天童市大字原町145番地1		
自己評価作成日	平成29年 2月2日	開設年月日	平成26年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天童市内の公園の北側で緑豊かな環境に位置し、また近くにショッピングセンターもあり気軽に買い物等に出掛けられます。小規模多機能と併設しており、その利用者とも気軽に交流があり、一緒に行事を行うなど楽しく生活しています。そうした環境の中で開設時に掲げた理念を基にしながら利用者の方々が『明るく・楽しく・笑って』過ごせるように日々取り組んでいます。また、系列事業所の理学療法士等が定期的に程訪問してくれ利用者の心身機能の評価やリハビリを行っています。ADL自立されている方とADL低下が見られる方と混在しておりますが一人ひとりのペースで元気に楽しく過ごしていただけるように支援していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成29年 2月 24日	評価結果決定日	平成29年 3月 9日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すべき理念から、より家庭的な雰囲気の中で支援を行っている。「明るく、楽しく、笑って」「その人らしい生活」を実感出来る様に日々取り組んでいる。また、個人の生活・価値観・前向きに人生を歩む等、自身が歩んだ道を見失わないように日々の関わりを大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設での全体行事のご案内やボランティアの受け入れ、委員会によるイベントを通して、地域との交流機会を設けている。また、NPO法人による地域交流イベント「RUN伴」に職員が参加し、他事業所や地域と関わる新たな機会を設けた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページやブログを通じての情報発信を行っている。現在よりもさらに積極的な展開をおこし、自施設からの情報を広めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で町内会長や民生児童委員、地域包括支援センター、行政の方々にサービスに対する助言を頂いている。その内容について検討してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加以外にも事業所の基準、設備や運営についての助言を頂くなどしている。また困難事例においては地域ケア会議を通じて連携して諸課題に対応している。定期的に来てくださる介護相談員のアドバイスもケアに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所が2階部分に位置し基本的にエレベーターを使つての移動になるが、利用者様の意思で自由に行き来してもらっている。また、帰宅願望が聞かれた際は職員による傾聴だけでなく、家族へも報告し必要時協力を仰いでいる。また、福祉用具を活用しながら拘束しないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用前様の情報収集に努めると共に、利用開始後は発言、身体状況の観察など行うことで虐待の発生防止、早期発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の利用が適切と思われる利用者様に関してはご家族や包括支援センター等と連携して支援を行っている。但し、職員個々について制度の理解が不十分である為、学習機会を設けたり、ユニット会議で共有し合う等取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間を確保して利用料金、緊急時の対応、契約解除等詳しく説明を行った上で同意を得ている。また、状況の変化があった場合には再度説明して納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者様との何気ない会話から本人の意見・要望を聞き、何が必要なのかアセスメントを行っている。また、ご家族の面会時には近況報告をするとともに、ご家族の思いを伺っている。また、玄関にご意見箱を設置しさまざまな方の意見を伺う環境を整えている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様の状況の変化に対応して統一的なケアを提供する為、月1回のユニット会議の他、毎朝の全体申し送り、委員会、その日働いている職員同士等、随時の話し合いの場を設けて管理者と職員が意見交換できるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の場だけでなく、日々の会話の中で職員の希望を聞き活かすよう努めている。介護職員初任者研修、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を推奨し、シフト等を調節して各職員が向上心を持って働くことが出来る環境づくりに努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修、外部研修などを活用して学びの機会を設けて技術・知識の向上に努めている。また、研修を行った職員より研修報告・議事録を提出してもらい、他職員も内容について把握してもらおう環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修を取り入れ、他事業所への研修に行った事で自分の職場の良い点、不足している所を再確認し自分の事業所の「売り」は何かを考えサービス向上に努めている。またグループホーム連絡会が協力している天童市の認知症カフェの手伝いなど他事業所と一緒にいきその中で情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、ご本人様・ご家族様・前施設担当者より情報を収集し、それらを職員間で共有。面接調査項目を参照し、カンファレンスで必要な変更などを考え、ご本人が安心した生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間に利用者様、ご家族様の不安や要望に耳を傾けながら、関係作りを行う。入居後も話し合いがしやすい雰囲気作りを心がけ、よりよい環境・生活・サービスを実施出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	昔行っていたこと、利用者様の得意なこと、施設生活の中で出来ることに参加していただき同じ時間を共有する。また、アセスメントを通してご本人の性格・考え方・価値観等を見極めて、個別のケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で、役割のある和やかな生活が送れるように努め、一つの家族として共に生活していける雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日々の生活の様子をお伝えしたり、月1回のお便りを発行し、施設での生活の様子や体調面での変化、その後の経過なども報告している。ご家族様が面会に行きやすい明るい雰囲気作りを努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会時、居室にてゆっくりと過ごしていただき、少ない時間の中でも安心してお話が出来るように環境の準備を整えている。また、ご家族様との外出機会を設け、家族関係を保てるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶会や体操・レクリエーションの時間は、職員も間に入り会話に加わることで、普段席が遠く頻繁に会話が行えていない利用者同士でも楽しく過ごせるように環境作りをし整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	前回の評価から転居・亡くなった方を含めた利用終了の利用者様は4名。また、長期入院時はお見舞いに行き現状を確認し、亡くなった際には、葬儀やお悔やみに伺い家族の方と一緒に最後のお別れをさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様からの訴え時はもちろん、訴えない場合であっても、日々の言動や行動から状態の変化を読み取り、利用者様に対し何をすべきか把握している。現状困難な要望の場合は、管理者やご家族様へ報告・連絡・相談を行い、対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時にご本人・ご家族様へ聞き取りを行い、これまでの生活の様子や環境等を把握するように努めている。今後も細めに情報を得て把握に努め、必要時はご家族様へも協力を依頼している。。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個々の生活リズムを把握しつつ、表情や行動などから、その時の状況を把握するように努めている。日々の申し送りにて職員間での情報の共有を図る。 一人ひとりが好きなように一日を過ごし、その中で全体でのレクリエーション・体操等を取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関りの中で感じたことや気付いたことなど、アイデアをユニット会議の中で意見交換を行い、統一したケアができるようにしている。また、会議以外でも日々の生活の中で職員同士話し合い、上司への報告・相談を用いられるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたこと、その日の様子を日々の記録に示し、モニタリングやカンファレンスの際にも情報を交換している。また、職員が客観的視点で簡潔に記録の記入が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に出掛けたり、マラソン応援や地域の行事などの地域活動等にも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	サービス開始時、協力医療機関について説明した上でご家族様が希望するか、かかりつけ医にしている。また、協力医療機関の訪問診療や医療機関への情報提供も行っており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々のご利用者様の状態把握を行っており、必要な情報は常に看護師へ報告を行っている。また、状態の変化への対応について、相談を行い、指示を仰いだ上で適切な対応を行っている。週に1回訪問看護との状況報告をする機会も設け、外部との連携も密に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での様子や入院に至るまでの経緯について、医療機関に情報提供を行い、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化があった場合や受診の必要性がある場合は、随時ご家族様へ連絡している。状況報告を早めに行い、ご家族様の意向にも沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置し、年に1～2回程講習会を開催している。現在まで講習会に参加できていない職員もいる為、今後も継続して講習を行い職員全員が把握する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を定期的実施している。また、前回の訓練では地域の方にも参加協力を頂き、問題点の確認を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の性格を尊重し、認知症の症状に合わせた関り方や、ご本人のプライバシーを傷つけない声掛けや行動等の対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で個人の意見を引き出すようにしている。その意見を否定せず、可能な限り実現できるように支援している。また、職員が主体的になって動くのではなく、利用者様が自己決定出来るように機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション、夜間の睡眠など、その日の気分や状態に沿って、無理強いする事なく支援している。また、利用者様のこれまでの家庭で生活していた状況を失わないように日々利用者様と関わりを持っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洗身・洗髪、入浴後の爪切り・男性の方へ髭剃り、好みの服を選んでいただく等して、その人らしい生活が出来る様に支援している。散髪はご家族様への依頼、施設で行う方に対してもご本人、ご家族に確認をとりながら定期的に散髪を行い身だしなみを整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れるように心がけている。入居者様の体調や気分に合わせて料理を提供している。また、食事が楽しみになるよう、調理・盛り付けの手伝いなどを行ってもらい、共に楽しめる環境作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・バランスを考えた献立を作成している。食事摂取量を記録し、個人の状態に合わせた形状に変更している。固定のメニューにならないように行事での特別な食事や外食、出前などを取り入れて、楽しみ方の工夫なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にうがいを促し、食後は口腔ケアを促し、必要な方には介助を行い、清潔保持に努め、義歯は夕食後に消毒している。各利用者様が自身の口腔ケアをどこまで出来るのか、どこから介助に入るのか担当職員からの情報共有を徹底するように取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、平均排泄回数を把握し記録にも残している。年齢に伴った尿意の感覚低下が見られる利用者様に対し、定時での声かけ・誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供や献立内の乳製品の取り入れ、水分補給に努めている。また、レクリエーション・体操等で身体を動かす機会を作り腸内運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の要望や身体状況、入浴時間、介助にてかかる時間を考慮し、基本週に2回(現在1名のみ3回)の個浴・機械浴を本人のADLを見極めて選択し入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活スタイルに合わせ、居室やソファ、自席で落ち着いて休息がとれるように設けている。また、温度・湿度を調節して快適に過ごして貰えるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬説明書にて、用法・用量・目的・副作用などの情報を共有し、理解する。薬の変更があった場合は、状態観察をし、変化を医師または看護師に報告・相談する。利用者様個人のファイルに情報を保管し、各職員が閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせて洗濯物たたみや調理の盛り付け、下膳、リネン交換・雑巾作りなどをお願いしている。それ以外にも利用者の好みの物を外に食べに行ったりすることで、普段の生活に加えた張りのある生活に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせ、散歩、買い物、ドライブに出かける機会も大切にしている。家族の協力を得て、外出や外泊する事もしばしばある。地域での催事等に情報収集し、出かける機会を順次増やして行きたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理が困難な方が多く、必要時は立て替えていつでもお金が使えることとお話している。本人希望時はご家族様了解の下、お金を持ち込んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えのあったときは、随時取り次ぐようにしている。また、個人の携帯電話を所持している方もいるが、基本は自由に使用していただいている。平日などご家族様の取次ぎ可能な時間帯であるか判断しつつ連絡させてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに、ソファや椅子・テレビテーブルを配置して、自由に過ごして頂いている。壁の飾りで季節感や生活観が感じられるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で過ごしてもらったり、隣のフロアや1階に行きグループ以外の利用者様との交流も図っている。また、グループ内の利用者様全員で談笑するなど、誰とでも気軽に会話が出来る環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時ご家族様と相談し、馴染みのもの(ダンス・サイドボード・テーブル・椅子等)を持ち込んでいる。自由に居室を使用していただきながら、日々清潔に保たれているのか、担当職員が把握し必要時居室の整理を行ない、その人らしい生活環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、脱衣所やトイレなどを区別し易いように表示を付けている。また、手すりを設けて歩行時等も安全に生活して頂ける様に配慮している。認知症の進行により自身の居室が分からなくなってしまいう利用者様に対し、居室の扉に名前を貼る等の工夫を行っている。		